

平成 28 年度 聖母被昇天学院小学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

教育目標 「心身共にすこやかで愛に生きる子

～進んで学ぶ子、強く生きる子、神と人を愛する子～

1. 進んで学ぶ子

- (1) 基礎的基本的学力を身につける
- (2) 自分で考え判断する
- (3) 自分の考えを表現し、分かち合う

2. 強く生きる子

- (1) 基本的生活習慣を身につける
- (2) 強い心と体をつくる
- (3) 責任をもち、自主的に行動する

3. 神と人を愛する子

- (1) 自分の良さや人の良さを認める
- (2) 思いやりをもち、友だちを大切にす
- (3) 感謝の気持ちをもって喜んで働く
- (4) 自然を大切にする

2 中期的目標

2016 年度テーマ：つながり

1. 2017 年に向け、教育内容の改編 ～児童・保護者の満足度アップ

- (1) 教育内容の充実
 - ア) 授業力の向上
 - イ) ICT 教育の向上
 - ウ) 国際教育の充実
 - エ) 特色教育
 - オ) 2017 年度に向けて

2. 入学者の確保 ～2017 年度入試 50 名以上の入学者確保

- (1) 広報活動
 - ア) 入学者の確保
 - イ) 併設校との連携推進

3. 校務運営を円滑にすすめるための教職員組織強化

- (1) 人事組織
 - ア) プロジェクトチーム設置
 - イ) 業務内容の見直し

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 29 年 2 月実施分]

○保護者

保護者アンケートを平成 29 年 2 月 6 日～2 月 14 日に実施した。

建学の精神をふまえた学校のモットーが、保護者、生徒によく理解され、生徒の中に宗教的な情操が確実に養われていると感じます。また、落ち着いた学習環境が整っていることは、今後の子どもたちの成長に大切なことです。

2017 年度に向け、学校の教育内容が大きく変化するようですが、限られた時間の中でより良い準備がすすめられていると感じます。これまでの心の教育と合わせて、やはり確かな学力をつけることが保護者の希望です。教育改革をすすめる中で、心の教育と 21 世紀を生き抜く力がしっかりと育まれることを期待しています。

○教員

教員アンケートを平成 29 年 2 月 6 日～2 月 14 日に実施した。

建学の精神をふまえた学校のモットーを土台とし、創立当初からの少人数教育を重視していることを 100%に近い教員が意識し、教育活動に活かされていると感じている。

特に、一人ひとりの学習状況や、生活面、健康、安全管理に配慮し、個々の人権が重んじられている。この教育を活かしつつ、2017 年度に計画されている教育改革（主体的な深い学びの授業作り、ICT の導入、英語教育の推進）をすすめる準備を行ってきた。新しい取り組みは、本校の教育活動の延長線上にあるが、より発展させていくことが望まれている。

本校に期待を寄せる新しい保護者層や児童を迎えた新年度について不安も感じるころではあるが、教職員組織が一致団結し、同じ方向を向いて、日々研鑽していくことが重要であると自覚している。保護者アンケートの指摘同様、併設校との連携、特に併設中学校との連携は、約 70%の教職員が問題視しており、次年度の課題と考える。

【分析】

昨年度同様、保護者学校評価の結果、全項目について「よくできている（よくあてはまる）」「できている（あてはまる）」が 80～90%の高い評価を得ている。特に、建学の精神・教育理念に基づく本校の教育活動において、温かい雰囲気ときめ細かい少人数への指導については、保護者より高く評価されている。その中で、学習面や学習環境に対する不安に関する記述がみられた。教育理念に基づいたより良い教育内容を提供することが、私学として保護者から第一に求められるということを真摯に受け止め、教職員一人ひとりが日々指導研究に精進することをさらに意識し、本校の教育内容の向上に努力を続けなければならないことを改めて確認をした。また、2017 年度の教育改革に向け、21 世紀型教育の学びを在校生の教育活動に推進していく。また、大雨時の対応等、緊急時の対応についてはスクールバスの利用など事前にメール配信ができるよう連絡体制を整えるよう努める。

父母の会活動について、アサンプション・チャリティ・デー等の役員の役割負担が大きいとの指摘があった。学院チャリティの行事内容を再度見直すよう、学院と連携を密にしたいと考える。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 2017年に向け、 児童・保護者の満足度アップ 教育内容の改編	(1) 教育内容の充実 ア) 授業力の向上	①校内研修の実施と校外研修への参加に務める。 ②各学年に応じた学習方法の研究及び研究体制の整備を行う。 ③アクティブラーニング等の21世紀型教育の試行導入を行う。 ④年間を通じた新任研修の推進を促進する。	①長期休業期間を利用し、教科授業・人権・宗教・ICTなどの研修を校内で実施する。校外研修参加を促進し、研修内容を職員会議で共有する。(判定：○、△、×) ②主要教科については教科部会を中心として、研究を行い6年間の発達段階に応じた授業展開を研究する。(判定：○、△、×) ③21世紀型教育については、参観授業の内容を外部講師に指導いただく機会を設け、3学期は、週1回自主研修を継続して行う。(判定：○、△、×) ④新任研修については、学年単位でサポートを行う。(判定：○、△、×)	①結果：○ 研修については、年間を通じて、特に長期休暇に研修日(夏季:10日間、冬季:5日間春季:6日間)を設定し、全教員が研修をする機会を設けることができた。継続が必要である。 ②結果：○ 教科部会を次年度の教育改革に向け、学院プロジェクトチームの傘下に本校の教科部会を設置する組織とした。次年度は、新しい取り組みが始まる為、教科部会を4部(国語・算数・AL・英語)に再編したい。 ③結果：○ 計画通り実施し、また、本校における21世紀型教育については、教職員間で一定の共通理解ができた。今後、実践を通じて更なる理解を深めるために、外部講師研修を年3回設定したい。 ④結果：△ 新任研修については、校内における分掌研修や、校外研修への参加を促進したい。
	イ) ICT教育の向上	①授業でのiPad活用を促進する。 ②校外研修(iPad活用)への参加に努める。 ③プレゼンテーション力の育成を図る。	①保護者・教職員アンケートで70%がiPadに対する肯定的な結果であること。(判定：○、△、×) ②全教職員の校外への研修参加を実施する。 全教職員実施 → ○ 一部教職員実施 → △ 未実施 → × ③児童のプレゼンテーションについては、宿泊行事等の報告会を、保護者参観日に設定し、発表する機会を学年に応じて設定する。(判定：○、△、×)	①結果：△ iPad活用については、86%の保護者がiPadを取り入れた新しい教育活動に努めていると評価している。68%の教職員がすすめていると感じている。しかし、学校備品が20台と限られているため、次年度は使用学年が偏らないよう40台整備をしたい。 ②結果：△ 校外研修は、一部教職員にとどまったが、長期休暇の研修では、外部講師を招き、授業に取り入れる実践的な活用方法を学ぶ機会を持った。時間的制約があり全員参加は困難である。教員間での学び合いを促進する校内研修の設定と、学院と連携しながら、情報担当者を明確にしたい ③結果：○ 計画した取り組みは、保護者に評価されている。児童の発表機会は、前年度よりも増加している。次年度は、内容を深いものにするよう目標設定を行うよう努める。

<p>ウ) 国際教育の充実</p>	<p>①小中高英語カリキュラムの策定を行う。</p> <p>②英語指導方法の研究に努める。</p> <p>③異文化理解教育の推進を図る。</p> <p>④日本文化の学習強化を図る。</p> <p>⑤Skype を利用した系列校との交流を行う。</p>	<p>①英語イマージョン教育の卒業時の目標を明確にする。(判定：○、△、×)</p> <p>②英語指導については、小中高におけるイマージョン教育準備委員会を設置し、準備内容について情報を発信する。(判定：○、△、×)</p> <p>③異文化交流としては、併設中学校高等学校を訪問している留学生や、箕面市を訪問している留学生との交流機会を持つ。(判定：○、△、×)</p> <p>④日本文化については、全学年が年間3回の「礼法」授業を受講する。 予定通り3回 → ○ 一部 → △ 未実施 → ×</p> <p>⑤Skype を活用し、箕面市の協力を基、外国人小学生との交流の場を実施する。(判定：○、△、×)</p>	<p>①結果：○ 英語イマージョン教育の1年目を行い卒業時の目標は明確となった。小中高12年間のプログラム検討に今後努める。</p> <p>②結果：○ 英語指導については、小中高におけるイマージョン教育準備委員会が設置され、研究準備を行っていることを発信した。</p> <p>③結果：○ 保護者アンケートでは、81%の保護者が国際交流を通じて、児童が成長したと評価している。2年生では一時帰国児童の短期入学を受け入れた。異文化交流としては、併設中学校高等学校を訪問している留学生や、箕面市を訪問している留学生との交流機会を持った。</p> <p>④結果：○ 日本文化については、全学年が年間3回の「礼法」授業を受講した。クラブ活動・課外活動においても、茶道を受講した児童(6年41名中8名)には茶道家元からの免状が発行された。日本文化の学びは、「礼法」「習字」の特色教育として継続する。6年生の硬筆・書き初めの外部評価を維持できるよう努めていきたい。</p> <p>⑤結果：○ Skype は、箕面市を通じてニュージーランドの小学生と交流を行った。次年度、ネット環境が整備されるため、Skype が実施しやすい状況となる。複数の学年が、体験できるよう英語科で検討を続ける。</p>
<p>エ) 特色教育</p>	<p>①国語：読書・習字・音読・論文指導の研究</p> <p>②算数：チャレンジタイムによる基礎学力の充実</p> <p>③総合：食育・礼法・生教育の推進</p> <p>④体験学習のカリキュラム作成を行う。</p> <p>⑤行事の見直しと改善を図る。</p>	<p>①②③保護者アンケートの教科に関する項目で80%以上の肯定的な評価を得る。教科(国語・算数・総合)の取り組みについては、具体的な取り組みの計画通りに実施する。(判定：○、△、×)</p> <p>④体験学習のカリキュラム(指導目標)を作成する。(判定：○、△、×)</p> <p>⑤各行事の改善を行う。(判定：○、△、×)</p>	<p>①②③結果：○ 保護者アンケートでは、83%の保護者が特色教育通じて、児童が成長したと評価している。学力指導に関しては、76%が評価している。各教科の取り組みは計画通りに実施した。特色教育による児童の成長を保護者へ発信することを目指す。確かな学力をつけるために特色ある取り組みを継続し、保護者から80%以上の評価を得よう努める。</p> <p>④結果：○ 体験学習のカリキュラムを作成した。今後は、体験学習の目標を、具体的な活動とつなげて意識することを目指す。</p> <p>⑤結果：△ 各行事の改善に努めた。教育改革によるコース制に伴い、海外研修旅行を見直していきたい。</p>

	<p>オ) 2017年度に向けて</p>	<p>①新コース制の学習指導内容・学級経営の検討を実施する。</p> <p>②新カリキュラムの作成と教材研究及び評価の検討を実施する。</p> <p>③規定品等の検討を実施する。</p>	<p>①②新コース・カリキュラムについては、教科を中心に職員会議や研修の場を利用し準備をする。(判定：○、△、×)</p> <p>③規定品・施設面については、学院と連携しながら準備をする。(判定：○、△、×)</p>	<p>①②結果：△ ある程度の準備をすすめることができた。職員会議や研修を通じて教職員に教育改革の共通理解を行った。今後も教育改革に伴う変更について、教職員への周知と共通理解に努め、保護者への周知についても同様に取り組む。</p> <p>③結果：△ 準備は概ね予定通りに実施できた。次年度、変更内容を随時検討し、課題点は改良するよう努める。</p>
<p>2017年度入試 2 入学者の確保 50名以上の入学者確保</p>	<p>(1) 広報活動 ア) 入学者の確保</p> <p>①内部満足度の向上</p> <p>②HPによる情報発信の強化</p> <p>③外部幼稚園、幼児教育との関係強化</p> <p>④新コース設置に伴う入試制度の検討、説明会の実施</p> <p>⑤外部広報活動の充実・強化</p>	<p>①保護者アンケートの内部満足度に関する項目が平均 90%以上であること。(判定：○、△、×)</p> <p>②学院の HP・ブログ・被昇天っ子元気新聞・学校だより・学年通信などで情報発信を活発にし、保護者アンケートで 90%以上の評価をうけること。(判定：○、△、×)</p> <p>③外部幼稚園、幼児教室との関係を強化し、校外説明会の件数を 10 件にする。 10 件 → ○ 5 件前後 → △ 0 件 → ×</p> <p>④新コース設置の入試制度等を検討し周知する。(判定：○、△、×)</p> <p>⑤外部広報活動を強化するため、HPなどを活用する。(判定：○、△、×)</p>	<p>①結果：○ 保護者アンケートでは、85～95%の保護者が教育活動に満足をしている。</p> <p>②結果：○ 保護者アンケートでは、95%の保護者が HP・ブログ・被昇天っ子元気新聞・学校だより・学年通信などを通じて学校の情報発信ができていますと評価している。</p> <p>③結果：○ 予定通り校外説明会の件数が 10 件となった。今後も外部幼稚園・幼児教室での説明会を増やすように努める。</p> <p>④結果：△ 新コース入試 2 年目に向け、1 年目の反省を活かし再検討を行いたい。</p> <p>⑤結果：△ 入学者が募集定員を充足した。引き続き、定員確保に努める。また今後の広報活動強化の取り組みの一環として、HP に連動するスマートフォン向けアプリの導入を検討する。</p>	

	<p>イ) 併設校との連携推進</p>	<p>①園児・児童・生徒の交流推進を図る。</p> <p>②併設校園の教職員との意見交換、交流促進を行う。</p> <p>③中学内部推進制度の見直しを実施する。</p>	<p>①併設校との連携した教育活動について、80%以上の保護者評価を得る。(判定：○、△、×)</p> <p>②教職員の交流の場を設ける。(判定：○、△、×)</p> <p>③内部推薦入試について、中学から保護者への説明の機会を設定する。(判定：○、△、×)</p>	<p>①結果：△ 保護者アンケートでは、66%の保護者が併設校との連携が行われていると評価している。来年度も引き続き80%以上の保護者評価が得られるよう努める。</p> <p>②結果：○ 教職員の交流の場として、4・8・12月に研修会を実施した。定例の研修会の他、日常的な交流を行うよう努める。</p> <p>③結果：○ 内部推薦制度について、保護者へ説明の機会を今後も設けていきたい。</p>
<p>3 公務運営を円滑にすすめるための教職員組織強化</p>	<p>(1) 人事組織 ア) プロジェクトチーム設置</p>	<p>①2017年度教育改革、特に研修の推進に努める。</p> <p>②教育改革内容について、学院との調整連絡を実施する。</p> <p>③外部への見学研修に努める。</p>	<p>①教職員対象に学院(年間3回)及び小学校内(年間約20回)で研修を実施する。 すべて実施 → ○ 一部実施 → △ 未実施 → ×</p> <p>②学院との調整は、主に管理職を通じて行う。(判定：○、△、×)</p> <p>③教職員の積極的な外部見学研修を行う。(判定：○、△、×)</p>	<p>①結果：○ 計画通りの実施ができた。今後は、教育内容に関する校内研修(教科)を、年間20回以上設定する。</p> <p>②結果：○ 学院との調整は、主に管理職を通じて行った。今後は、積極的に学院との調整会議を行っていきたい。</p> <p>③結果：○ 外部見学研修への参加は時間的に困難であったが、実践校の視察(2校)などを行った。引き続き外部見学研修への参加を推進する。</p>
	<p>イ) 業務内容の見直し</p>	<p>①教職員の業務見直しによる職員採用</p> <p>②ボランティア人材による教育活動サポート</p>	<p>①分掌業務の内容を確認する。(判定：○、△、×)</p> <p>②ボランティア人材として、シスターグループからの派遣(2名)、図書ボランティア(1名)を導入する。(判定：○、△、×)</p>	<p>①結果：○ 分掌業務の内容を確認した結果、分掌業務担当教員の増員が必要であることを感じている。今後は人材の確保に努める。</p> <p>②結果：○ 当初の予定通り合計3名のボランティア人材の導入を実施した。引き続き、校内ボランティアの導入と校外活動時のボランティア利用を推進していきたい。</p>